

Hello!!

ALT

外国語指導助手(ALT)
キム



上：叔母さんとツーショット
下：アメリカで人気のお寿司

久しぶりにアメリカへ!

12月26日から1月7日まで、アメリカの実家に帰省しました。東京から飛行機だと、行きで約9時間、帰りで約11時間かかる長い旅です。

「キムが帰ってくるなら」と、昔お世話になっていた剣道仲間が、練習のない日だけれど特別に道場を開けてくれて、20人ほどが集まりました。練習後、日本人の叔父さんが作ったお雑煮やケーキ、ドーナツなどを食べるパーティをしました。

また、日本人の叔母さんが経営する日本食を提供するお店へ手伝いに行きました。天ぷらやお寿司、ラーメン、うどんなどのメニューがありますが、お寿司はアメリカ人向けにアレンジ

したものもあり、えび天やサーモン、アボカドと一緒に巻いたお寿司が人気です。高校から大学までこのお店でバイトしていたため、常連の人が声をかけてくれてうれしかったです。

日本食もおいしいですが、久しぶりに食べたくなった、カリフォルニア発祥のハンバーガー店「IN-N-OUT」にも行きました。メニューはシンプルで、ハンバーガー3種、フライドポテト、飲み物だけです。飲み物は、日本でいうLサイズがアメリカではSサイズで、基本的にアメリカは日本よりも大きいものが多いです。そのため、帰省中は太らないように、友達と一緒にジムに行くこともありました。

Xin chào!!

CIR

国際交流員 (CIR)
ジュエン



↑父と作った
バインチュン

←動画はこちら
から

もうすぐ旧正月です

皆さんは、お正月が明けると通常通りに戻ると思いますが、自分の感覚では今はまだ年末です。なぜなら、先月の記事でもご紹介しましたが、ベトナムのお正月(テト)は旧暦の旧正月を祝うからです。旧暦の元旦は毎年1月の中旬から2月の中旬の間です。テトは一年の中で、家族が集まる最も重要な伝統的な祝日です。最近、テトが近づいてきているせいか、よくホームシックになってしまいます。

日本人と同様に、ベトナム人も年末には大掃除し、大みそかは日本でいう紅白歌合戦のような定番の番組を見て、元旦には初詣に行く習慣があります。しかし、食べ物と飾り物について

は違う点があります。テトの料理は、日本でいうちまきのようなバインチュンや茹で鶏肉、ベトナム風ハム、揚げ春巻き、赤いおこわなどが定番です。また、ベトナム人は繁栄・幸福を象徴するのに、北部では桃の花、南部では梅の花、そして金柑の木などを使って家の中を飾ります。お正月の過ごし方は「1日は父親の親戚の家を訪ね、2日は母親の親戚の家を訪ね、3日は恩師の家を訪ねる」ということわざがあるように、親族や恩師の家を訪れ、お礼を示すときであると考えられます。今年のテトで父とバインチュンを作った様子を動画にしました。ご興味のある方はぜひご覧ください。

無理しすぎず、自分を大切に生きて欲しい



まるお あやこ
丸尾 綾子

昭和8(1933)年生まれ。
ゴルフや料理、パッチワークが
趣味。パッチワークサークル「も
りのくまさん」にも所属してい
る。

丸尾さんは猿払村出身で、親の代から続く魚屋さんを継ぎ、お店ではお惣菜も手がけるなど忙しい日々を送っていたそうです。当時、自衛隊の演習が行われた際には約1,000人近くの隊員が村を訪れたこともあり、地域の仲間たちと協力し、卸業をされていたそうです。卸業を続けていくうちにお刺身やお寿司を食べにくる隊員の方々が少しずつ増えていき、お店は演習があると毎日のように賑わいを見せていたそうです。「とても忙しい日々でしたが、大変というよりも、充実感と楽しいという気持ちの方が強かったことをよく覚えてます」と当時を振り返ります。

そんな丸尾さんの趣味はゴルフや料理、パッチワークだそうです。特にゴルフは昔から好きだったそ

うで、日曜日をお店の定休日にして、色々な人を巻き込んでよくプレイされていたそうです。またお店を切り盛りしていたこともあり昔から料理が好きで、今でもよく魚料理はもちろん色々な料理をされるそうです。

猿払村について、丸尾さんは「安心感があり、離れがたい」と語ります。理由として、「猿払村出身ということもありますが、村の雰囲気や人との繋がりなど、とても住みやすく居心地がいいからだと思えます」と続けます。

最後に猿払村の未来を担う若者へ向けて、「今も頑張っていると思うので、無理しすぎないようにして、自分をもっと大切に生きて欲しいです」と、優しくエールを送りました。

時代の立役者と
未来を担う若者

紡ぐ時代

つながる未来

今と未来のインタビュー

ポジティブ思考で日々前向きに過ごしていきたい

松谷さんは野球部と保体委員会に所属し、野球部では仲間と協力することの大切さを学ぶことができたそうです。保体委員会では委員長を務めており、下級生をまとめることが大変だったそうですが、野球部で身につけた仲間と協力する力を発揮し、仲間と共に上手くまとめることができたそうです。そんな松谷さんが一年生の自分と比べて成長したと感じているところは、落ち着いた行動を取れるようになったところだそうです。「上級生に上がるにつれて、下級生のお手本になれるよう、次第と落ち着いた行動を取れるようになっていきました」と教えてくれました。

松谷さんが学校生活で一番思い出に残っていることは修学旅行だそうです。その中でも特に思い出に

残っているのが、初めて体験したラフティングとのこと。「全身ずぶ濡れになりましたが、ガイドさんのお話も楽しく、とても良い経験をする事ができました」と楽しそうに話してくれました。

松谷さんは猿払村の人が少ないことで、のびのびと生活することができるところが好きだそうです。逆に一つ一つの施設が遠いところと、買い物するときに物が揃わず、稚内市などに買いに行かなければいけないことがあることが不便だと感じているそうです。

最後に将来の自分に向けて、『周りの人に迷惑をかけることなく、ポジティブ思考を大切に、色々なことに挑戦しながら頑張っていきたい』とエールを送りました。



まっや しゅんた
松谷 俊汰

拓心中学校3年生。
ゲームが好きで、最近帰宅後シューティングゲームやオープンワールドゲームをよくプレイしている。